

# 埋文ふじのみや

MAIBUN

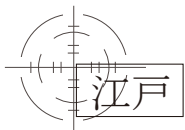
Vol.16



一字一石経（拡大したもの）

「利」「報」「衆」…。これらは、富士山が噴火しないよう祈りを込めて石に書かれたお経です。感染症に翻弄される現在、人知の及ばない物に対する当時の人々の祈りに共感を覚える人は少なくないはず。

本号後半では、市内で出土した歴史的価値の高い資料が登場。保管場所が東京都内のものもありますが、詳しくご紹介します。早く気軽に遠出できる日が来るよう、願いを込めて。



# Futamatamura Sekkyouzukaato

## 二股村石経塚跡

ふたまたむらせつきょうづかあと

富士宮市栗倉

調査年 / 1985年

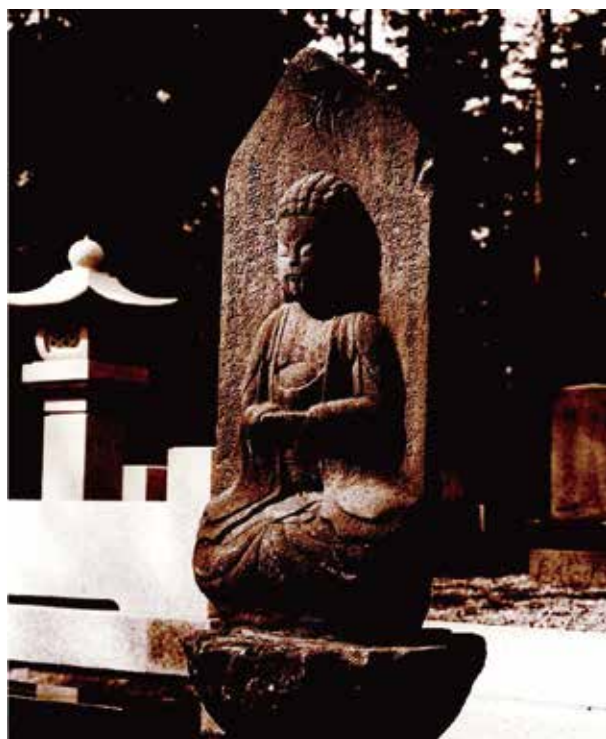


### 富士山噴火への祈り

二股村石経塚は、浅間大社から村山浅間神社に向かう道者道の途中にあります。「釈迦如来坐像」と「釈迦如来立像」の2体の石仏が建っており、光背に彫られた文字から、宝永6年(1709)に宥伝ゆうでんという僧が「大乘妙典」を書写し、石仏を建立したことが分かります。道路拡幅工事による移転の際に、石仏の下から、1つの石にお経の1文字を書いた「一字一石経」が52,830個埋められているのが見つかり

ました。その文字から宥伝が石に書写したお経は「大乘妙典」の「法華経」か「華嚴経」であると考えられます。「一字一石経」を埋め、その上に「釈迦如来坐像」を建立し、さらに翌年に念仏講の男女同行46人により、隣に「釈迦如来立像」が建立されました。宝永4年の富士山の噴火によって、多くの人々が犠牲になっており、こうした背景からこの石経塚は、富士山の噴火が二度と起こらない様に人々が願いを込めて建てたものと考えられています。

報告書 / 『駿州富士郡二股村石経塚』1987年



釈迦如来坐像



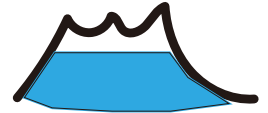
釈迦如来立像



一字一石經







ここからは、市内で発見された特筆すべき資料をご紹介します。思わず「えっ おもしろい」「かわいい!」「フシギ～」と口にしてしまいそうなモノたち。その資料的価値の高さから、所蔵場所が市内ではないものもありますが、ぜひいつかあなたの目で見てほしい資料たちです。



### 三連甕型土器 [さんれんかめがたどき]

この土器は、野中にある野中向原遺跡から出土したものと伝わっています。

古墳時代の東海地方の遺跡から出土がよく見られるS字甕と呼ばれる、口の部分がS字状になっている土器を、3個くっつけた形をしています。S字甕と同じような作り方をしていますが、脚の部分の割合が大きく、連結部分には孔が開いており、水を注ぐと3つの甕に均等にわかれる構造になっています。

このように3つ連結した形の甕は全国的にも非常に珍しいもので、ここまで完全な状態で残っているものは他にないと思われます。

S字甕は煮炊きに使った実用的な道具ですが、この個体はS字甕の大きさの1/3程度しかなく特殊な形をしているため、祭祀に使われた道具だと考えられます。

貴重なものとして、1980年に市の有形文化財に指定されました。



三連甕型土器とS字甕（右）



三連甕型土器

Sanren kamegata doki





## 養寺の土偶 [あんようじのどぐう]

杉田にある安養寺に1体の土偶が所蔵されています。

この土偶は、杉田中村遺跡から出土したものと伝わっています。

土偶とは、縄文時代に作られた土製の人形で、ハートやミズク形のものや遮光器土偶などがあり、大半は女性を表しており、神聖で呪術的なものと考えられています。東日本に多く見られます。

安養寺の土偶は側頭部と両手が欠けていますが、ほぼ完全な形で残されています。土偶は祭祀行為等で打ち欠くことがあるため破片で出土する例が多く、このようにほぼ完全な形で見つかるのは非常に珍しく、静岡県内では他に1例があるのみ

です。

幕末に安養寺の裏側の用水の工事を行った際に出土したと伝わっており、この辺りからは縄文土器も拾えることから、縄文時代の遺跡であることが分かります。

円形の顔を貼り付け、胸には乳房があり下腹部が膨らんでおり、女性を象っています。体の文様は縄文時代後期の土器の特徴と同じです。

この土偶は縄文人たちにとって、多産と豊穡を祈る地母神じぼしんの象徴で祈りを込めた存在だったのかもしれませんが。貴重なものとして、1982年に市の有形文化財に指定されました。



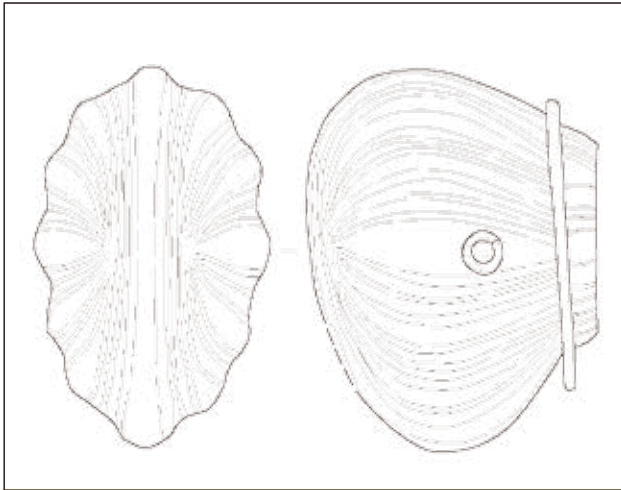
## 別所1号墳出土資料 [べっしょいちごうふんしゅつどしりょう]

安居山にかつて存在していた別所1号墳から出土したものです。古墳自体は近年の開発によって消滅してしまいましたが、現在、近くには別所稲荷塚古墳や別所蛇塚古墳が存在しており、小規模な群集墳を形成していました。古墳の形は、他の古墳と同じく円墳と想像されますが、詳細な記録はなく不明です。明治35年に発掘され、古墳の内部に長さ2.73m、高さ1.6m、幅90cmの石室がありました。そ

の中から副葬品として、刀身が3振、金銅製うなめかぶつちのたち蛙目頭椎太刀、鉄製銀象嵌ぞうがんの鏢つば、鏝こじり、馬具である雲珠うず4個、杏葉ぎょうよう5個、轡くつわが出土し、玉類ではまがたま勾玉、切子玉、小玉や金環、鉄鏃等が見つかっています。優品が多く、中でも鉄製銀象嵌の鏢は非常に珍しいものであり、古墳に葬られた人の地位の高さを表しています。

これらは、現在は東京国立博物館に所蔵されています。

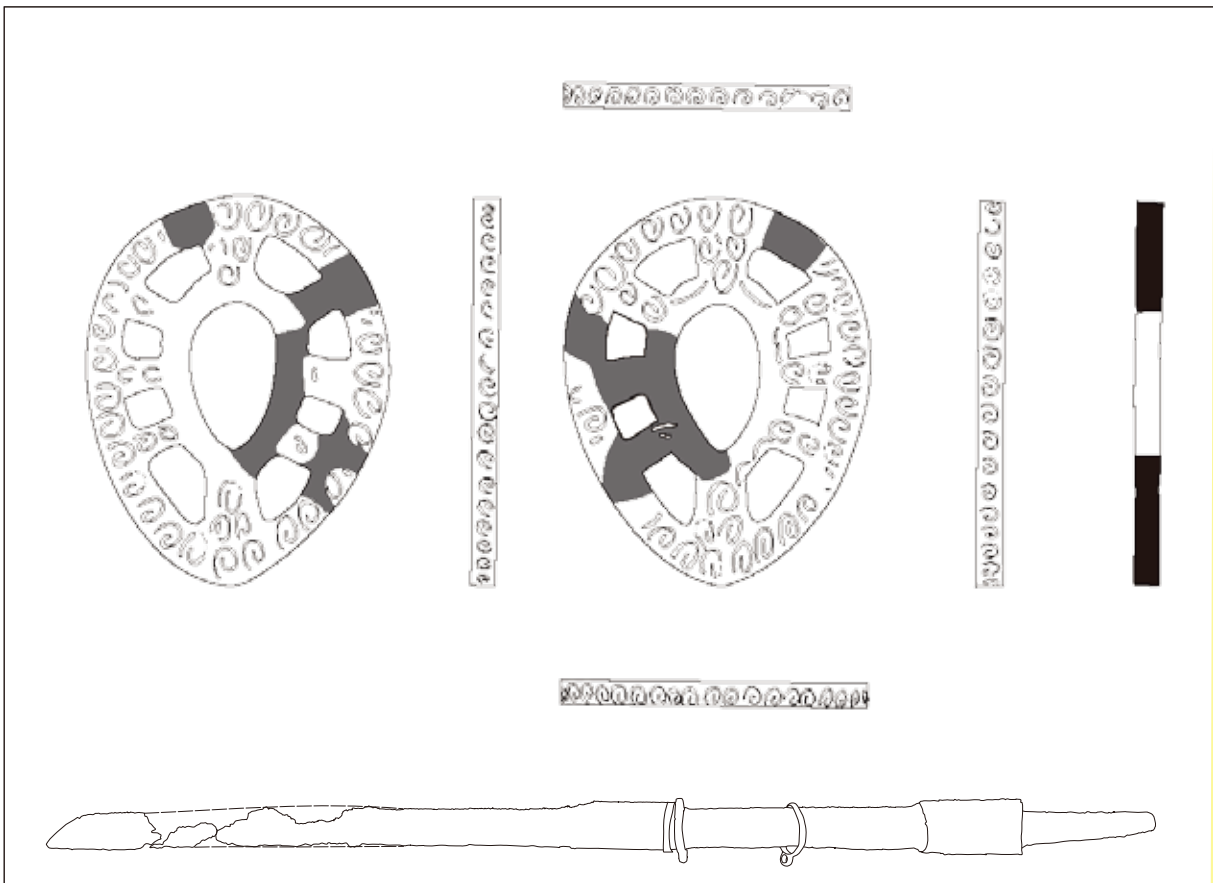




頭椎太刀の柄頭



安養寺の土偶



銀象嵌鐸 J-12788 古墳6c 八窓透鐸 はっそうすかしつば

Anyouji no doguu  
Bessho ichigoufun

# バックナンバーのご案内

これまでに発行された『埋文ふじのみや』Vol.1～Vol.15は、富士宮市のホームページでご覧になれます。合わせて、最新号も公開しています。



創刊号



Vol.2



Vol.3



Vol.4



Vol.5



Vol.6



Vol.7



Vol.8



Vol.9



Vol.10



Vol.11



Vol.12



Vol.13



Vol.14



Vol.15

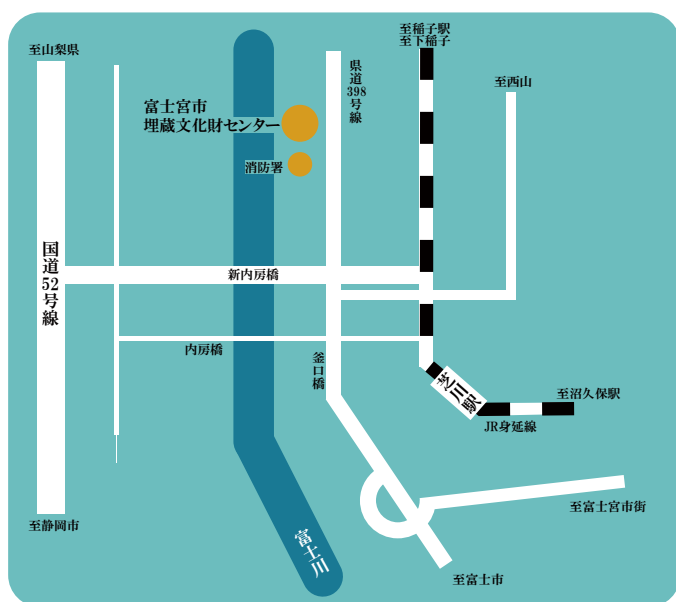
## 富士宮市埋蔵文化財センター

### ご利用案内

- 所在地 〒419-0315  
静岡県富士宮市長貫 747-1
- 電話 0544-65-5151  
FAX 0544-65-2933  
E-mail maibun\_center@city.fujinomiya.lg.jp
- 展示室 平日  
開館日 \* 祝日及び年末年始(12月28日～1月3日)は休館
- 開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)  
\* 埋蔵文化財センターの業務時間は  
8:30～17:15
- 見学科 無料  
駐車場 あり(無料)



### 交通案内



富士宮市埋蔵文化財センターだより  
**埋文ふじのみや** Vol.16

令和4年3月  
編集／発行 富士宮市埋蔵文化財センター